

CONTENTS

表紙：KAKUTA『ひとよ』  
渡辺えり

2

INTERVIEW:1-1  
KAKUTA『ひとよ』

力強く圧倒される愛を観ていただきたい。  
桑原裕子  
笑って泣いていただくのが楽しみです。  
渡辺えり

4

INTERVIEW:2  
地点『君の庭』

セリフを聞きたいと思って読む。  
三浦基  
アクセントを変えて読むと聞こえてくる。  
松原俊太郎

8

INTERVIEW:3  
井垣壮太ピアノコンサート

今が人生で一番情熱がある時期。  
井垣壮太

10

INTERVIEW:4  
『ゲルニカ』

自由に向かって  
歩き続ける人々を。  
長田育恵  
この状況下でしか  
伝えられないことを。  
上白石萌歌

12

INFORMATION  
PLAT主催公演情報

14

INTERVIEW:1-2  
KAKUTA『ひとよ』

15

SUPPORT  
TICKET CENTER

裏表紙：『ゲルニカ』  
上白石萌歌  
PLAT CALENDAR

公益財団法人  
豊橋文化振興財団情報誌  
2020年9月-10月

vol.45



TOYOHASHI  
ARTS  
THEATRE  
PLAT

PLAT NEWS

9 September

- 8 [火] 大学・短期大学・専門学校 進学ガイダンス  
◎PLATアートスペース
- 14 [月]—16 [水] 豊橋演劇鑑賞会  
第280回例会 劇団民藝『送り火』  
◎PLAT主ホール
- 22 [火・祝] 『THE ODORI』鈴木馨ハレエスタジオ公演 VOL.41  
◎PLAT主ホール
- 25 [金] 桜丘中学校 総合学習発表会  
◎PLAT主ホール
- 26 [土]—27 [日] PLAT小劇場シリーズ 地点『君の庭』  
◎PLATアートスペース

10 October

- 3 [土]—4 [日] PLAT小劇場シリーズ KAKUTA『ひとよ』  
◎PLAT主ホール
- 6 [火] 井垣壮太ピアノコンサート  
◎PLATアートスペース
- 10 [土] 森谷真理 ソプラノ・リサイタル【振替公演】  
◎PLAT主ホール
- 15 [木] 人形浄瑠璃 文楽  
◎PLAT主ホール
- 20 [火] 桂文我 独演会  
◎PLATアートスペース
- 23 [金]—25 [日] 『ゲルニカ』  
◎PLAT主ホール
- 25 [日] ミュージックランド小林 ピアノ発表会  
◎PLATアートスペース

表紙／渡辺えり KAKUTA『ひとよ』 撮影：宮田明里  
裏表紙／上白石萌歌『ゲルニカ』 撮影：源賀津己  
企画・発行／公益財団法人豊橋文化振興財団  
編集・デザイン／味岡伸太郎＋有限公司STAFF  
令和2年8月発行 45号[隔月発行]



TOYOHASHI ARTS THEATRE  
PLAT

矢作——まず、『ひとよ』の再々演をやろうと思ったきっかけと、それを渡辺えりさんに主演をお願いしようと思ったきっかけを、お話ください。

桑原——2019年に白石和彌監督で『ひとよ』が映画化したときに、せっかくだから舞台版も、と再々演のことを考えていました。ちょうどその頃に、えりさんから「2020年に『女々しき力』という、女性の劇作家を中心にしたプロジェクトができないかと考えている」というお話を伺った際に、「女性がたくましくここに生きているような作品をやる予定はありますか」と聞かれて、「ちょうど、『ひとよ』をやりたいと思ってたんですよ」と答えたんです。そのときに駄目もとで「えりさん、出ていただけませんか」とお聞きしたところ、「あの役？面白うじゃない」と、乗ってくださって。

矢作——えりさんは桑原さんの作品に出られるのは、今回が初めてですね。

渡辺——私は、それまでKAKUTAのことも知らず、KAKUTAの意味も、誰が作演出家かも知らなかったのですが、2015年に再演された『<sup>あとあと</sup>痕跡』を観て、すごいと思いました。私が主催を務める劇団3000に出てくれた松村武さんからたまたま案内状をもらって、「あ、もう楽日だ。行かなきゃ」と何もわからずに行った。そしたら、すごく面白く、「照明もいいな」と思ったら、3000と同じ宮野和夫さんで。そして「あ、あの女優さんはいいな」と

思ったのが桑原さんでした。それからいろいろ気になって、『ひとよ』も千秋楽に観に行つて、もう号泣しちゃった。何が好きかという、男の劇作家が書くと、男の人がすごく活躍して女の人はちょこっとしか出ないというのが、ほとんどです。女性の役が面白くて個性的な作品を書く桑原さんは、稀有だなと。しかも、一人一人が生き生きして、悲しい。それをきちっと書き分けるというのはすごい。私が『ひとよ』で演じる役は、ほんとうに面白い役です。私なりのものをやらせていただいて、何とかお客さんに笑って泣いてもらおうと、もう、それが楽しみです。

矢作——桑原さんは、どういったところをえりさんに期待していらっしゃるのでしょうか。

桑原——最近、冷笑的というような風潮が世間にすごく波及していると思っていて。無責任に、冷たい目で見て、勝手に物事を冷めた目でとらえてしまえば一番楽で。私、その空気はすごく嫌だなと感じています。またコロナ禍で、そういう空気感が増して「演劇なんか、いらなくない？」と言う人たちもSNSで多く目にしました。そういうなかで、「自らの責任と向き合う覚悟を持った人間の凄味」というのをやりたいと思ったとき、この年、このタイミングで、えりさんと『ひとよ』をやるというのは、運命的に思えたのです。

えりさんの演じる母親の役は、家族への愛を体中に満たしたまま、15年も一人で孤独に耐えながら重い罪

渡辺えり[わたなべ・えり] / オフィス3000代表。日本劇作家協会会長。劇作家、演出家、俳優。劇作家として83年に岸田國士戯曲賞、87年に紀伊國屋演劇賞を受賞。近年は、さらなる自由な表現を求めて「鯨よ!私の手に乗れ」「私の恋人」などの意欲作を発表。女性劇作家とのプロジェクト「女々しき力」の活動にも力を入れている。一方、客演主演舞台の人気も高く、2021年2-3月には東京・新橋演舞場、京都・南座で「喜劇お染与太郎珍道中」が待機中。音楽活動にも積極的に取り組むなど、益々精力的な活動を展開している。

桑原裕子[くわばら・ゆうこ] / 劇団KAKUTA主宰。劇作家・演出家・俳優。ブロードウェイミュージカル「ピーターパン」の潤色・演出や、脚本家として手掛けた世田谷パブリックシアター主催「往転」(作・演出)が岸田國士戯曲賞、鶴屋南北戯曲賞の最終候補になるなど高い評価を得る。2015年、KAKUTA「痕跡(あとあと)」が第18回鶴屋南北戯曲賞受賞。18年「荒れ野」が第6回ハヤカワ悲劇喜劇賞、第70回読売文学賞戯曲・シナリオ部門を受賞。2019年桑原の原作「ひとよ」が白井和彌監督で映画化された。

を背負って生き抜き、笑顔で帰ってきます。多分それは、最近あまりお目にかかれぬ強さを持った、この時代がどこかで求めている人。誰のことも冷笑的に見ることができない人。そういう力強いもの、圧倒される愛というものを、皆さんに観て感じていただきたい。暗い状況を元気に笑い飛ばしてほしかったり、力強く立ってほしい。えりさんにぴったりなイメージだと思いました。

矢作——えりさんは、演出家としての桑原さんに何を期待されていますか。

渡辺——映画で主人公を演じた田中裕子さんもすばらしかったのですよ。やはり裕子さんは巧いし、深いし、知的です。それはかなわないし、自分にはない。そういう知的さや計算ではない部分、「子どもたちを守ろう」と盲目的に思うがあまりのオッチョコチョイな、抜けがある部分を自分の場合は出せるのではないかと、そういうところを桑原さんがうまく引き出してくれるのではないかなと思っています。それと、私は声がデカイから、一本調子になるところも抑えてくれるのではないかと期待しています。KAKUTAの芝居を観ると、みんな細かくいろいろやっているので。ああいう細かさを演出してもらえたいことを期待しています。

矢作——今回、キャストも一新と言っていいですね。

桑原——私はもともと当て書きをするので、最初に書いたときは、キャストのイメージが凄く強いんです。だから再演するときは、「同じキャストを当てたい」と思ってしまいがちなのですが、今回、えりさんとやることになったから、今までとは違う家族像ができていいし、人が変わることによって変わる家族の形を探してみたいと思った。それによって、「前はこんなにコメディージャーなかつたのに、コメディージャーになったな」でもいいし。逆に、絶望が濃く見えたとか、そういう違いが出てくることもすごく楽しみです。

矢作——今回、やっとな桑原さんにPLAT主ホールで作品を演出していただけるのですが、あの空間でどういったことにチャレンジしたいと思いますか。

桑原——もともと今作はちっちゃなタクシー会社が舞台で、熱い塊がぎゅっと凝縮された小空間に観客のフォーカスを集めるようなものを作りたいと思っていたので、再演のときには初演より狭いざ・スズナリにしました。わざと俳優同士の肩がぶつかりそうなくらい狭いタクシー会社を作ったのです。だから今回も、もちろん劇場が少し大きくはなるのですが、演技が解放的になったり大きくなるのではなく、その世界観を大切に、この「三密駄目」という時期に、精神的濃度が濃いものを皆さんの心にお届けする舞台にしたいという野望があります。

P14に続く。

## PLAT小劇場シリーズ KAKUTA 『ひとよ』

ある一夜の出来事をきっかけに  
それまでの人生が  
激変してしまった家族の物語

10月3日[土]・4日[日]13:00開演

作・演出＝桑原裕子

出演＝渡辺えり／桑原裕子、

成清正紀、若狭勝也、

異儀田夏葉、多田香織、

谷恭輔、酒井晴江、

高橋乱／荒木健太郎、

久保貫太郎、

小林美江／まいと豊

会場＝PLAT主ホール



笑って泣いていただくのが楽しみです。

出演  
渡辺えり

力強く圧倒される愛を観ていただきたい。  
桑原裕子

作・演出・出演

聞き手 矢作勝義 穂の国とよはし芸術劇場PLAT芸術文化プロデューサー



INTERVIEW: 1-1

矢作—— 京都を拠点にされていますが、地点という劇団が活動を始めたのはいつからでしょうか。

三浦—— 僕が演出を始めたのは1997年で、地点として仕事をしだしたのは2002年からです。1999年から文化庁の派遣芸術家在外研修員としてパリに留学し、帰国した2001年から東京で活動を始めました。そして2005年には劇団の拠点を京都に移しました。

矢作—— パリに留学される前から演出家としてやっていこうと思われていたのですか。

三浦—— 演劇の大学・桐朋学園では俳優をやっている、学内で演出したことをきっかけに、自覚し始めました。完全に演出家だと思ったのは、卒業して2年目ぐらいです。大学の4年間は、とにかく演劇を観まくった。

乱読ならぬ乱観劇です。年間で200本以上観ました。仕送りの大半をチケット代に使っていて、それが演出家としての勉強になりました。商業演劇からコンツェル的な演劇も含めて全部見ないと駄目だと思って観ました。パリに留学していた2年間も年間200本以上観ていましたね。貴重な体験になったと思います。

矢作—— その後、地点という自らのカンパニーを京都で作られましたが、あえて京都を選ばれた理由はどういったところですか。

三浦—— 京都芸術センターの企画で連続して作品を作ったのですが、1本作るのに大体2カ月ぐらい滞りして、準備期間も含めると2003～04年あたりは半年弱ぐらい京都にいたことになりました。ずっと京都芸術セン

松原俊太郎[まつばら・しゅんたろう] / 劇作家。1988年、熊本県生まれ。神戸大学経済学部卒。2015年、処女戯曲『みちゆき』で第15回AAF戯曲賞大賞受賞。2019年『山山』で第63回岸田國士戯曲賞を受賞。小説『ほんとうのこと』を『群像』(講談社)2020年4月号に寄稿。主な作品に『忘れる日本人』『正面に気をつけろ』『ささやかなさ』等。2020年度セゾン文化財団セゾン・フェロー1。

三浦基[みうら・もとむ] / 地点代表、演出家。1973年生まれ。99年より文化庁派遣芸術家在外研修員としてパリに滞在する。2001年帰国、地点の活動を本格化。05年東京から京都へ拠点を移す。これまでの代表作にチューホフ作『三人姉妹』、イェリネク作『光のない。』など。11年度京都市芸術新人賞、17年読売演劇大賞選考委員特別賞、ほか受賞多数。著書に『おもしろければOKか?現代演劇考』(五柳書院)、『やっぱり悲劇だった「わからない」演劇へのオマージュ』(岩波書店)。ロシア・サンクトペテルブルクの国立劇場、ポリショイドラマ劇場(BDT)からのオファーで同劇場のレパートリー作品としてドストエフスキー作『罪と罰』を演出することが決まっている。

ターにいたんですが、その環境がまず良かった。そこに集まっていたスタッフとミーティングするのも東京よりやりやすかったですね。そういう気楽さが後押しになりました。それと、演劇とは関係なく単純に京都が体質に合っていたと思います。

矢作—— 現在の地点の三浦さんの演出スタイルにいきついたのはいつ頃だったのですか。

三浦—— スタイルや方法は変わるもので、今もあまり意識してはいません。ただ、普通じゃなくやるということを実感して始めたのは2001年にパリから帰ってきてからです。そのとき東京で作った作品は明らかに普通じゃなかった。いわゆるナチュラルな芝居の仕方ではないものを自覚的したのはそこからです。ただ、本当にこれな

らいけると思ったのは2003年の『三人姉妹』ですね。感觸的には「当たった」という感じ。その後くらいから地点語とか、地点のスタイルと言われるようになってきました。

矢作—— 松原さんが脚本を書き始められたきっかけは地点で、もともとは小説を書いていたとお伺いしました。

松原—— 文芸誌の新人文学賞に応募してぷらぷらしていた頃に、地点のアトリエであるアンダースローで『ファッツァー』を観て衝撃を受けて通うようになりました。ちょうど地点がやっている観客養成プログラムの「カルチベート・プログラム」に参加して、地点の作品は大体観ましたね。それで、カルチベート・プログラムのエッセイを書いてほしいとのお話があり書きました。そのあと初めて書いた戯曲がAAF戯曲賞大賞を受賞した『みちゆき』で、この作品は三浦さんに演出していただきました。その時は全く何が何だかわかんないまま書いて、上演されたものを観ても、まだよくわからない。その次が初めて地点から依頼されて書いた『忘れる日本人』です。とにかく持てるもの、自分が出せるものを書きました。

矢作—— 地点はこれまで松原さん以外の新作戯曲の作品を上演されていますか。

三浦—— 現代作家の作品は何本もやっていますが、新作で依頼して、書き下ろしてもらったのは松原戯曲だけです。

矢作—— 松原さんの戯曲のどこに魅力を感じて、新作をオファーされたのでしょうか。

三浦—— 基本は既に歴史的評価を得た戯曲を演出したいけれど、それはそんなに多くない(笑)。僕は近代以降の戯曲が好きなんです。もしシェイクスピアが得意だったら毎年やれるんですけど、ちょっと苦手で、そういう訳にもいなくて……。実は新作書き下ろしというのは極めてリスクが高い。リスクというのは、『君の庭』も

うですが、新作には大概時事ネタが入ってきます。これが怖い。古典作品や発表されて何年も評価に耐え抜いてきた作品は、普遍的な言葉であるかどうかという監査を潜り抜けていて、とこまで注意力を払わなくても舞台上に乗せられる。これが現代の作家で、しかも日本人で、

同時代の言葉を出してきた時に、これからの歴史的評価も含めて耐えられるのか……。松原くんは期待に応えてくれるし、文学、哲学、そして戯曲の知識も高いので、そういう意味では信頼が置ける作家と考えています。

矢作—— 三浦さんの演出はいわゆる発話の仕方、発話の仕方がすごく独特ですが、一体どのように組み立てているのでしょうか。

三浦—— 戯曲の構成や、再構成というのは説明できるけど、アクセントに関しては確かに良く聞かれるのですが、これがなかなかうまく答えられないんです。

松原—— 稽古ではよく三浦さんは「セリフが聞こえる／聞こえない」と言われています。これは普通に読んだだけ

## INTERVIEW:2

—あらすじ—  
沈黙と禁忌を破った娘は、  
ついに王を訴える。  
恋人が加勢し、  
侍従が引き止め、  
一般人が乱入し、  
王は思い悩む……  
これは混戦するリアリティショー？  
それとも繰り返し再生される  
テープレコーダー？  
嘘のような現実を見ているのは  
いったいどの誰なのか、  
法から逃れんとする  
「ファミリー」は  
果たしてどこへ向かうのか。

【劇場版】  
9月26日[土]・27日[日]  
14:30開演  
会場=PLATアートスペース  
【オンライン版】  
9月26日[土]14:30—10月18日[日]23:59  
配信サービス=PIA LIVE STREAM  
作=松原俊太郎  
演出=三浦基  
出演=安部聡子、石田大、小河原康二、  
窪田史恵、小林洋平、田中祐気

PLAT小劇場シリーズ

# 地点『君の庭』

構想一年、松原俊太郎が  
コロナ禍に書き上げた「告・発・劇！」

セリフを聞きたいと思って読む。  
アクセントを変えて読むと聞こえてくる。  
作 松原俊太郎  
演出 三浦基

聞き手 矢作勝義 穂の国とよはし芸術劇場PLAT芸術文化プロデューサー

だと聞こえない、でもアクセントを付けて読んだり、別の読み方をすると聞こえてくる、という感じでしょか。

三浦—— ちなみに今日の稽古では、台詞を発するとき例えば「君の庭」と普通に発語するのではなく、日本語なのに英語風に聞こえる読み方を、トリクレストしました。そうすると、聞いている方がうまくヒアリングができない。普通台詞はメッセージが届くように言わなきゃいけないけど、わざとイントネーションを変えてみよう。『君の庭』の台詞は憲法や法律など堅いテキストなので、まともに活字を読んでいるように読まれても頭に入っていない。むしろ、何かふざけているのかな、でも重苦しいことを言っている、いやどうも愛の告白を謳っているんだな、みたいなことのほうが興味を持つ。そういうことを台詞の内容に従って直感的に指示して、それがうまくはまればラッキーですね。

矢作—— いわゆる口立てで台詞のトーンで指示してやるわけではなく、あくまでそのイメージを伝えて演出をしているのですね。

三浦—— そうですね。僕は口立てはほとんどしないですね。どっちかって言うと、どうやって台詞を読んでもらえるのか聞きたいと思っていますし、それに興味があります。演出家としてはどちらかというと、俳優がどう見せてくれるかな、どうやってくれるかな、というのに興味があります。地点で演出する場合、確実に集団創作です。インシアチブを誰が取るかというのはそのときの流れです。読み合わせをしていて、一人が何か当たりのようなものを見つけて、それがいんじゃないとなる。すると相手

役や他の俳優たちも共通してこのノリで、という感じで作りすすめていっています。

矢作—— 俳優の方からのアウトプットを受けて、またそれを返すというのを繰り返して作品化していく。

三浦—— そうですね。例えば最近のブームの中で見つけてきた面白いことを渡してレスポンスを返してもらう。それぞれが新鮮なイメージや面白がっていること、それはまだ言葉や理性では解決してないことを、俳優の演技と作家の言葉を通してすり合わせをしていきたいということが実際に行われている感じかなと思いますね。

矢作—— 今回テーマに「天皇制」を選ぼうと思ったきっかけと、コロナ禍がこの作品にどう影響したと考えるとられますか。

松原—— これまで地点のために書いた戯曲である『忘れる日本人』『正面に気をつけろ』『山山』は、全部震災以降の日本がテーマでした。それが『山山』で集大成を見たという感触を受けたので、三浦さんと次は何を書こうか、まずは大きいテーマを、と考えた時に、やはり「天皇制」かな。「天皇制」は大変です。資料を集めるのも、どこから手を付けていいのかよくわからない状態でした。それが2月にKAAT 神奈川芸術劇場で稽古をして、ある程度軸みtainのが見えてきて、さあ、書くぞとなった時にコロナに襲われて。その後『君の庭』は配信で観られる演劇という前提が入ってきた。そこに焦点を当てて、今までに無い形で書いていかないといけないという状態でした。

矢作—— 配信で観られる演劇について、どんなイメージ



『忘れる日本人』ではつぶやきを、  
『正面に気をつけろ』では叫びを、  
『山山』では呼びかけを、  
そして現代日本の「陳述」を通じて  
新たな「地点語」を模索する。



『山山』2018年 撮影：松見拓也



『正面に気をつけろ』2019年 撮影：松見拓也

をお考えですか。

三浦—— まず基本的には演劇は劇場で観るものだという前提は変わっていません。ただ、劇場に足を運べない状況でも何か伝えられるのではないかと。単純に舞台中継を流すだけでももちろんそれでもいいと思うんですけど、どうせならば配信ならではの訴え方やリアリティーの有り様が持てるんじゃないかという気がしたのが発端ですね。公演の頃どういう状況になっているかはまだわかりませんが、もちろんお客さんに来ていただき、観てほしいです。ぜひとも。としてある部分で配信は、実際の舞台とは違う感覚を持てるようにしたいと思っています。今考えているのは、舞台に俳優全員がいなくてもいい、どこか違うところから声が響いて来る。それを配信と絡められないだろうかとか考えています。劇場に人が集まれないという障壁があるのならば、今回の配信演劇で全体的な集合体ではない部分で補填する。劇場で観た人はそのあと配信を観るとまた違う面が見える、配信で観た人は劇場で観た場合にこういうことになっているのだと両方補完するような形で全体像が見える。そうすると、天皇制の「象徴」とか「不在」といった言葉にもつながるのではないかと考えています。

矢作—— 最後に豊橋の皆さんへメッセージをいただけますでしょうか。

松原—— 松原戯曲と地点の組み合わせは初めて見る人に評判がいいらしいので恐れずに観に来ていただければと思います。

三浦—— このツアーは、まず京都での上演と配信からスタートし、豊橋、そして神奈川へと続きます。もし地点やこの公演がどんな演劇か分からなくて怖い、足が重い、状況も状況だしな……と思われる人は、とりあえず配信で触れていただいて、怖くなさそうだったら実物を観に来ることが用意されているという点で、豊橋の公演は素晴らしいタイミングです。今回、ロームシアター京都とKAAT 神奈川芸術劇場、そしてPLATの3つの劇場と共同製作をし、上演と配信をします。特に配信は同じものを配信するというわけではなく、京都を経て、豊橋ならではの演出に必ず発展するのでぜひそれを観ていただきたいです。

矢作—— ありがとうございます。

ご鑑賞にあたって本作は「オンライン」と「劇場」の二つの空間で発表します。「オンライン版」と「劇場版」は相互補完的なものとして存在し、「オンライン版」はいわゆる劇場中継ではない、舞台上の出来事に映像演出を加えた内容になる予定です。本作は京都を皮切りに、豊橋、神奈川にて上演、各地のオンライン版ではそれぞれオリジナルのシーンもあります。なお、3地域のオンライン版は見比べてご覧いただけるように配信期間を調整しています。どうぞご期待ください。

かくもう楽しかったですね。卒業後はベルリン芸術大学に留学をしようとしたのですが、見事に落ちて。それからいろいろ考えたのですが、結局ピアノを教えるようになり、演奏活動もやりたいと思うようになりました。そうやって働くようになって経験を積んでいくうちに、ふつふつとピアノを弾くことへの情熱とか、職業としてピアノで生きていきたいという思いが少しずつ積み上がっていったんです。だから、大学当時よりも今が人生で一番情熱がある時期と言えそうです。

**中島**—— 1日どのぐらいの時間ピアノと向き合っているのですか。

**井垣**—— 1日平均5時間を目標にしています。朝、7時に起きて、新聞を読んだりしながら掃除を最初にして。朝レッスンが無ければ自分で作っている甘酒とプロテインと豆乳を割ったドリンクを飲みながら、練習を2時間ぐらい。1日の始めは必ずバッハから。それは、僕が大好きなアンドラーシュ・シフというピアニストがいて、「朝は必ずバッハから始める」というのを読んで、少しでも近づけたらという、これはファンとしての行動です。

**中島**—— ヨガをしてらっしゃると聞きましたが、それはピアニストとしての体を守ることや強めることを考えられたからですか。

**井垣**—— ピアノはずっと座っていなければならないので腰痛持ちで。高校生ぐらいのときから、体の調子が悪くなるので流石でヨガを、今考えるとただの柔軟みたいなことをずっとやっていたんです。腰痛はほとんど改善していたのですが、1年半ぐらい前に友人がヨガインストラクターを始め、誘ってくれたので軽い気持ちで始めました。でもやっていると体調管理にも良いし、何より楽しいので追求したい対象になっていきました。ヨガの数あるポーズは座るため、瞑想するためにあるそうです。ヨガの筋トレの側面も良いのですが、この瞑想がピアノには一番役に立っていると実感しています。バッハのバランスの話と同じことが、瞑想をしてうまく座れているときの背骨の動きにおいても言えるのです。極限まで力を抜いていくと、重力に対して背中側とお腹側の筋肉が微細に動いてバランスを取っていることが感じられます。こんなことも含めてヨガは楽しいので、これからも怪我をしないようにやっていきたいです。

**中島**—— 豊橋のお客さまに対して一言頂けますか。

**井垣**—— お客様が楽しみにしてくださり、生まれ育った豊橋で演奏の機会を持たせてもらえることは、日々の練習の励みになり、とてもありがたいことだと感じています。今回はソロコンサートになりましたが、僕の大好きなドイツの作品を中心に演奏する予定です。ぜひお楽しみに。

**中島**—— ありがとうございます。

**中島**—— 10月の公演は内容が変更になりましたね。

**井垣**—— 当初はイタリア出身のピアニスト、ミカエル・ジョバンニ・イエニングスとのジョイントコンサートを想定していました。2019年の3月にドイツのバッハコンクールで出会い、お互いの演奏の感想を言い合うようになりました。彼の演奏があまりに素晴らしかったので、気が付いたら「日本で一緒にコンサートをやろう!」と誘っていました。そのときは、彼を日本に呼べる計画性も全くなかったのですが、そんな無計画で力もなかった僕に、手を差し伸べて下さったのがPLATの皆様です。今回は来日が適わず実現できなかったのですが、本当に感謝しています。そんなわけで、ソロで演奏会をさせて頂くことになり、バッハ、シューベルト、ベートーヴェンの作品でプログラムを組み直しました。

**中島**—— 井垣さんはプラットワンコインコンサートをはじめ、その後もたびたび出演していただきましたね。

**井垣**—— PLATでは、ソロ、デュオ、アンサンブルなど、ワンコインコンサート以外でも3回ほど演奏しました。毎回コンセプトがあり、ピアノ2台8手で演奏する「8hands」のときは、ピアニストが4人もいるのでオーケストラの作品を選び、「皆さんが本当に聴いて楽しんでもらえる」曲目を多く入れました。高岡準さんとのピアノデュオでは、お互い現代音楽が好きだということもあって、ちょっと挑戦的な、お客様が初めて聴くような作品をやってみようという感じのプログラムが多かったと思います。

**中島**—— いま関心を持っている作曲家についても教えてくださいいただけますか。

**井垣**—— この5、6年はずっとバッハです。そしてこれからも長い年月をかけて取り組んでいきたいと思っています。バッハの作品はそれぞれの声部(ソプラノやアルトなどそれぞれの旋律)が生き物のようで、絡み合ったり、入替わったりしながら自由に動き回ります。自由に動くのですが、お互いを最大限引き立てていて、バランスも保っています。バランスを取るというのは妥協し合うことでも静止していることでもなく、常に動きながら、良い所を見つけようとしている状態なのではないかと、バッハを弾いていると考えさせられます。

あとはシューベルトも、ここ2、3年ぐらいとても関心があるので、今回演奏できるのがとても楽しみです。

**中島**—— 井垣さんは東京藝術大学のピアノ科を卒業しておられますね。

**井垣**—— のらりくらりとやってきてしまって、他に受ける場所が無かったので、音楽大学を受験してみようと。東京藝大ではもちろんピアノについて学ぶのですが、美術も含めたいろんな芸術に関する授業も受けることができ、沢山の刺激を受けました。東京での生活はとに

## 今が人生で一番情熱がある時期。井垣壮太

聞き手 中島晴美 穂の国とよはし芸術劇場PLATシニアプロデューサー

出演



10月6日【火】19:00開演 出演 井垣壮太 会場 PLATアートスペース

※共演予定のミカエル・イエニングスは、来日が困難となり出演を見送ることにになりました。

## 井垣壮太。ピアノコンサート

井垣壮太[い が き・しやうた] / プラットワンコインコンサート 2015年度出演。1987年生まれ、豊橋市出身。東京藝術大学器楽科ピアノ専攻卒業。2005年PTNAピアノコンペティションF級銅賞。2006年すみだトリフォニーホールにて松尾葉子氏指揮、ジュニア弦楽オーケストラとシオスターコヴィチのピアノ協奏曲第1番を共演。アカンサス新人演奏会、名古屋にてあしながジョイントリサイタルを開催。崎田俊治指揮教室で伴奏ピアニストを務める。これまでにピアノを近田佐映、長谷川淳、迫昭嘉、ローラン・テシュネ、ソルフェージュ・音楽理論を三浦健一、平野貴俊の各氏に師事。

今回の『ゲルニカ』で、演出の栗山民也さんからどのようなお話をいただいたのですか。

長田——「ピカソのゲルニカの絵は、人類の記憶に刻まれた1枚だ」というお話をまずいただきました。ラストシーンにあの絵の光景が現れる、ただし、ピカソには触れず、スペイン内戦を描くという題目でした。人類に課された初めての無差別虐殺という業を背負ったのがゲルニカなので、残虐やあらゆる悲惨、憎しみ、それらを正面から考えてみるというお題を渡されたんじゃないかなと思います。

上白石萌歌さんはいかがでしたか。

上白石—— 栗山さんの舞台はもちろんです、著書も拝読し、それを大学のレポートにするくらい尊敬する方なので、緊張やらプレッシャーやら期待やらで震えました。高校生のとき読んだ『演出家の仕事』の中の、「とにかく役者は、聞くこと、受けることを第一に考えた方がいい」という言葉は、今でも私のお芝居の軸になっています。

本作は上白石さんを主人公に当て書きして書かれたのですか。

長田—— キャスト・主役の方によって、あらずしもパターンか作りました。上白石さんが決まったことで、20歳になりたての、上白石さんという存在をそのまま預らせてもらうというつもりで書きました。サラという少女が成長していく物語ですが、間違っただけで間違っていると彼女の目に映ってほしい。でも、どうしてもなく突き進んでしまうときには、そういう悲しさとか愛しさもすくい上げてもらいたいなと。

上白石—— その話をいま初めて伺ったので、責任を感じました(笑)。今の段階で、脚本の第1稿の途中まで読ませていただきました。これから何が起るか予測できない、穏やかで尊い日常が流れいくのですが、このあとの物語では心が痛むことになると思います。それを自分なりにかみ砕いてお芝居をすることになるので、早く完成した脚本を読みたいなと思っています。

「ゲルニカ」がテーマということとは、最後には悲しいことが待っている。それを長田さんは、どうとらえていますか。

長田—— 今まで1カ月半で1作書けていたのが、1年以上取材して、執筆開始から2カ月半かかりました。死への恐怖とか、こんな大きな題材を、日本人で、今生きている私を書けるわけがないという重圧が大きかったです。ですが今こういう状況になって、ゲルニカに生きている人たちと、今の自分たちが不思議と似ているなと。例えば、一つずつの決断とか違和感を解消しないまま選択してしまったり、心の中ではプレーキがあったけど気付かないふりをしたりとか。今の日本にも、そういうことがたくさんある。ゲルニカではその選択一つ一つが重なって、こういう未来が訪れた。分岐点はいくつもあったのに全部の分岐を間違えてしまった彼らのことを、私たちは笑えるのか。このサラも、心が赴くままにいろんなことをし、誰かを愛したりする。それが悲劇を招くことになるかもしれないけれど、愛したことが間違

長田育恵[おさだ・いくえ]／早稲田大学第一文学部文芸専修卒、日本劇作家協会・戯曲セミナーに参加し、井上ひさし氏に師事、09年、自身の劇団「てがみ座」を旗揚げ、15年、てがみ座『地を渡る舟—1945 / アチック・ミュージアムと記者たち—』(再演)にて第70回文化庁芸術祭賞演劇部門新人賞を、16年に『蜜柑とユウツツ—茨木のり子異聞—』にて第19回鶴屋南北戯曲賞を受賞。18年には『砂塵のニケ』『海越えの花たち』『豊饒の海』により紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞。2020年は『ゲルニカ』の他、劇団四季ミュージカル『ロボット・イン・ザ・ガーデン』等の上演が控えている。

上白石萌歌[かみしらい・もか]／第7回「東宝シンデレラ」オーディションにてグランプリ受賞、2018年テレビドラマ『義母と娘のブルース』(TBS)で注目を集め、『3年A組—今から皆さんは、人質でサ—』(NTV)、大河ドラマ『いだてん—東京オリムピック噺—』(NHK)などの話題作出演や、劇場アニメ『未来のミライ』での声の出演、バラエティ番組『A-studio』(TBS)のサブMCに、「adieu」名義での音楽活動とマルチに活動、として主演映画『子供はわかってあげない』の公開が控えるなど、近年目覚ましい活躍を見せる若手実力派女優。



この状況下でしか伝えられないことを。 上白石萌歌 出演

自由に向かつて歩き続ける人々を。 長田育恵 作

10月23日[金]18:30開演  
 10月24日[土]13:00開演 / 18:00開演  
 10月25日[日]13:00開演  
 作＝長田育恵  
 演出＝栗山民也  
 出演＝上白石萌歌、中山優馬、勝地涼、早霧せいな / 玉置玲央、松島庄汰、林田一高、後藤剛範、谷川昭一朗、石村みか、谷田歩 / キムラ緑子  
 会場＝PLAT 主ホール

『ゲルニカ』  
 ピカソの名画に描かれたゲルニカの街  
 未来の為に戦う人々の珠玉の人間ドラマ

いだったのかといたら、そうではない。爆撃に遭って死ぬという結末を迎えるけど、その瞬間までは、ちゃんと向かおうとしていた人たちのことを書こうと思っています。

ゲルニカに、ゲルニカの木があります。この地方の人たちは、その樫の木をすごく大事にしてきた。その木があったからゲルニカが特別な場所だとされていた。例えば、スペインの王様が即位したときも、その木の下に来て、「ゲルニカやバスク地方の人たちを大事にします」と約束をして帰っていった。平和の象徴を持つ特別な町だったんです。だから、そこで生きるということは、憎しみに飲み込まれそうになっても抗って、尊厳を守り続ける、自由に向かつて歩き続けるという約束を、一人一人が自分に対して交わしているということ。そういう思いを、ゲルニカという町の名に集約していきました。

上白石さんは、観に来られるお客様にどういったものを届けたいですか。

上白石—— 世界にいる誰も、見えない恐怖や不安との共生が求められる今、1930年代のことを演じる。起こることは違いますが、この状況下でしか伝えられないこと、今しか感じてもらえないことがある作品だと思います。この自粛期間中に改めて感じたものはありましたか。

上白石—— 2月28日開幕予定だった舞台『お勢、断行』が、ゲネプロ前日の夜に中止になりました。今まで、初日が来ることやお芝居ができることが普通だと捉えていましたが、全くそうではないと実感しました。少しずつお芝居の仕事も始まっているのですが、演じることがこんなに自分にとって大きかったのだという思いが、自粛期間を経て強まっていると思います。

様々な上演が中止される今、演劇で伝えられることは何でしょうか。

長田—— 「人生で一度しか言わない言葉を書きなさい」と師匠の井上ひさし先生がおっしゃっていました。演劇って、登場人物が生の人生をそのまんま生きていて。その人生のなかでたった一度しか言わない言葉を今、まさに目の前で言う。誰かの人生に触れたり立ち会えたりする。テレビや映画とは違う、改めて力があると思いました。いま、脚本が書き上がってようやく力が抜けたんですけど、書いている間はすごく苦しい代わりに、これくらいのお題を与えてもらえなければ書かなかったセリフがたくさんありました。劇中のサラも、一生に1回しか言わないことを、いろんなシチュエーションで言う。それが、演劇の魅力じゃないかなと感じています。

上白石—— 日常のふとした言葉でも、すごく強さを秘めた言葉がたくさんある。今回の脚本では詩のような部分もあって、そこも物語の核になる言葉が詰まっていて、大事に読んでいます。幼い頃ミュージカルを習っていて、お芝居の楽しさや自分を回顧できる原点は舞台にあります。舞台以外で、1カ月もお稽古してその作品を深めていくことはなかなか無いので、そういう時間がとても濃密で魅力的です。

さらにブラッシュアップされ、豊橋で上演されることを楽しみにしています。



### 託児サービス対象公演

要予約。生後6ヶ月以上。  
お一人様 ¥500。お申込み、お問合せはプラットチケットセンターまで

### チケットの購入・お問合せ プラットチケットセンター

- 劇場窓口・電話 0532-39-3090 [休館日を除く 10:00～19:00]
- オンライン <http://toyohashi-at.jp> [24時間受付・要事前登録]

### U25・高校生以下割引ご案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。  
●料金＝U25[25歳以下]:公演ごとに指定する席種の半額/高校生以下:1,000円  
●購入方法＝各公演の一般発売初日から取扱い。  
●その他＝本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。座席の指定はできません。要・入場時本人確認書類提示。一部例外あり。詳細は各公演チラシ・HPにて。

**新型コロナウイルス感染症の影響により、公演の延期・中止、チケット発売日の延期が相次いでいます。今後も開催日やチケット発売日等、当初の情報や下記の掲載情報に変更が生じる場合がございます。最新情報はプラットチケットセンターまでお問合せいただくか、劇場ホームページをご確認ください。**

井垣壮太ピアノコンサート



井垣壮太

人形浄瑠璃 文楽『二人三番叟』『今朝廿四孝』



写真:青木信二

高校生と創る演劇『転校生』(2019)舞台写真



写真:伊藤華織

アル☆カンパニー『POPPY!!!』



平田 満 / 写真:伊藤華織

Noism1『Fratres I』舞台写真



写真:篠山紀信

小曽根真 クリスマス・ジャズライブ



小曽根真 / 写真:久富健太郎

**9/10 [木]** 18:30開演  
**9/11 [金]・12 [土]・13 [日]** 13:00開演  
**NORA 人形の家**(仮題) **中止**

**9/22 [火・祝]** 14:30開演  
**令和2年度公共ホール現代ダンス活性化事業  
市民と創造するダンス公演** **中止**

**9/26 [土]・27 [日]** 14:30開演  
**PLAT小劇場シリーズ  
地点『君の庭』** **発売延期**  
●作＝松原俊太郎●演出＝三浦基●出演＝安部聡子、石田大、小  
河原康二、窪田史恵、小林洋平、田中祐気  
【劇場版】  
●会員・一般同時発売＝9月1日(火)●会場＝PLATアールスペース  
●料金＝[全席自由・日時指定・整理番号付]一般3,500円ほか  
【オンライン版】  
●配信日程＝9月26日(土)14:30～10月18日(日)23:59●配信サー  
ビス＝PLA LIVE STREAM●チケット発売＝9月1日(火)●チケット取扱  
いはチケットぴあ●オンライン版視聴券料金＝1,000円

**10/3 [土]・4 [日]** 13:00開演  
**PLAT小劇場シリーズ  
KAKUTA『ひとよ』** **発売延期**  
●会員先行＝8月8日(土)●一般発売＝8月22日(土)●作・演出＝  
桑原裕子●出演＝渡辺えり/桑原裕子、成清正紀、若狭勝也、異儀  
田夏葉、多田香織、谷恭輔、酒井晴江、高橋乱/荒木健太郎、久保  
賢太郎、小林美江/まいと豊●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席  
指定]一般4,000円ほか

**10/6 [火]** 19:00開演  
**井垣壮太ピアノコンサート** **発売延期**  
●会員先行＝8月29日(土)●一般発売＝9月5日(土)●出演＝井垣  
壮太●会場＝PLATアールスペース●料金[全席指定]一般3,000円  
ほか

**10/11 [日]** 16:00開演  
**劇団四季ファミリーミュージカル  
『ジョン万次郎の夢』** **中止**

**10/15 [木]** 13:30開演/18:00開演  
**人形浄瑠璃 文楽** **発売延期**  
屋の部では「二人三番叟(ににさんばろう)」「摂州合邦辻(せつしゅう  
がっぽうがつじ)」を、夜の部では「今朝廿四孝(ほんぢょうにじゅうし  
てう)」「釣女(つりおんな)」をお届けします。●会員先行＝8月29日(土)  
●一般発売＝9月5日(土)●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指  
定]一般4,500円、昼・夜通し券5,500円ほか  
【特別協賛＝サーラグループ】

**10/23 [金]** 18:30開演 **発売延期**  
**10/24 [土]** 13:00開演/18:00開演(追加公演)  
**10/25 [日]** 13:00開演 **10月24日13:00のみ**  
**『ゲルニカ』**  
●会員先行＝8月22日(土)●一般発売＝8月30日(日)●作＝長田  
育恵●演出＝栗山民也●出演＝上白石萌歌、中山優馬、勝地涼、早  
霧せいな、玉置玲央、松島庄汰、林田一高、後藤剛範、谷川昭一朗、  
石村みか、谷田歩、キムラ緑子●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全  
席指定]S席10,000円、A席8,000円、B席6,000円ほか※発売日初  
日はお一人様1公演につき2枚までの制限あり  
【特別協賛＝サーラグループ】

**11/3 [火・祝]**  
**【振替イベント】とよはしアートフェスティバル2020  
大道芸 in とよはし**  
5月に新型コロナウイルスの影響により延期となった大道芸を開催しま  
す。●出演＝中国雑技芸術団、竹内直&Wagan Brothers、加納真実  
ほか●会場＝PLATほか●料金＝無料(事前予約制)  
【関連イベント】11/2 [月]19:00開演  
**竹内直&Wagan Brothers  
大駱駝艦スペシャルライブ**  
●出演＝竹内直、Wagan Brothers、大駱駝艦●会場＝PLAT主ホ  
ール●料金＝入場無料(事前予約制)

**11/7 [土]** 13:00開演/18:00開演 **発売延期**  
**11/8 [日]** 13:00開演/17:00開演  
**高校生と創る演劇  
『Yに浮かぶ』**  
公募による高校生出演者とスタッフが、劇場やプロのスタッフとともに上  
演する演劇の第7弾。東京を拠点に活動するmizhenの藤原佳奈の作・  
演出によるオリジナル作品をお届けします。●会員・一般同時発売＝9  
月26日(土)●作・演出＝藤原佳奈●出演＝オーディションで選考さ  
れた高校生●会場＝PLATアールスペース●料金＝[全席自由・日時  
指定・整理番号付]一般2,000円、高校生500円ほか  
【特別協賛＝サーラグループ】

**11/14 [土]** 14:30開演 **発売延期**  
**PLAT小劇場シリーズ  
アル☆カンパニー リーディング公演『POPPY!!!』**  
プラットのアソシエイトアーティスト平田満と井上加奈子のプロデュース  
ユニットであるアル☆カンパニーが、若手のクリエイターと作品作りを  
行うアル☆カンパニー・ラボを始動します。●会員先行＝9月19日  
(土)●一般発売＝9月20日(日)●作・演出＝野田慈伸●出演＝平  
田満、井上加奈子/町田水城、平田耕太郎、徳橋みのり、青山祥子  
●会場＝PLATアールスペース●料金＝[全席自由・整理番号付]一般  
1,000円ほか  
【特別協賛＝サーラグループ】



『ゲルニカ』

**12/5 [土]・6 [日]** 14:30開演 **中止**  
**モダンスイマーズ新作時代劇  
『しがらみ紋次郎(仮題)』**

**12/12 [土]** 16:00開演 **発売延期**  
**Noism Company Niigata  
実験舞踊 vol.2『春の祭典』/『Fratres III』**  
(プレビュー公演)  
新潟市の公共劇場りゅうとびあのレジデンシャル・ダンス・カンパニー  
NoismがPLAT初登場! Noism0&1&2 カンパニーメンバー総出演で  
挑む『春の祭典』と、シリーズ最終章となる『Fratres III』ほか1本の3本  
立て上演です。●会員先行＝10月17日(土)●一般発売＝10月31  
日(土)●演出振付＝金森稜●音楽＝I.ストラヴィンスキー《春の祭  
典》、A.ペルト《Fratres for Violin, String Orchestra and Percussion》  
●出演＝Noism0、Noism1、Noism2●会場＝PLAT主ホール●料金  
＝[全席指定]一般3,000円ほか

**12/14 [月]** 18:30開演  
**【振替公演】  
立川志の輔 独演会**  
古典・新作問わず落語に新しい息吹を吹き込む、大人気の立川志の  
輔による独演会です。(5月11日の振替公演)  
●出演＝立川志の輔●会場＝PLAT主ホール●前売予定枚数終了

**12/19 [土]** 17:00開演 **発売延期**  
**小曽根真 クリスマス・ジャズライブ**  
ジャズの最前線で活躍するピアニスト・小曽根真による、とっておきのク  
リスマス・ジャズライブです。●会員先行＝10月3日(土)●一般発売  
＝10月17日(土)●出演＝小曽根真●会場＝PLAT主ホール●料金  
＝[全席指定]一般5,000円、U25 2,500円ほか

**2021/1/5 [火]** 11:00開演/14:00開演  
**【振替公演】プラット親子わくわくプログラム2020  
鈴木智子『クラシカルクロスオーバーの世界』**  
11:00は0歳児から大人まで、14:00からは小学生から大人が楽しめる  
プログラムです。●会員・一般同時発売＝10月5日(月)●出演＝鈴  
木智子(ピアノ)、待井裕太(ギター)●会場＝PLATアールスペース●  
料金＝[全席自由・日時指定・整理番号付]大人1,500円、こども(4歳  
～高校生)500円、0～3歳無料(保護者ひざ上に限る)ほか

**2021/1/17 [日]** 13:00開演 **発売延期**  
**『ピーター&ザ・スターキャッチャー』**  
●会員先行＝11月7日(土)●一般発売＝11月15日(日)●作＝リッ  
ク・エリス●原作＝デイヴ・パリー、リドリ・ピアソン●音楽＝ウェイン・  
パーカー●翻訳＝小宮山智津子●演出＝ノゾエ征爾●出演＝入野自  
由、豊原江理佳、宮崎吐夢、櫻井章喜ほか●会場＝PLAT主ホール  
●料金＝[全席指定]S席6,000円、A席4,000円ほか

**2021/1/29 [金]・30 [土]・31 [日]** **発売延期**  
開演時間未定  
**PLAT小劇場シリーズ  
マームとジブシー『BEACH BOOTS CYCLE』** **1月30日のみ**  
●会員先行＝11月14日(土)●一般発売＝11月28日(土)●作・演  
出＝藤田貴大●会場＝PLATアールスペース●料金＝[全席指定]一  
般3,500円ほか

**2021/2/7 [日]** 15:30開演 **発売延期**  
**読売日本交響楽団 特別演奏会** **ライブポートとよはし**  
**華麗なるショパン&『展覧会の絵』**  
●会員先行＝11月21日(土)●一般発売＝11月28日(土)●指揮＝  
原田慶太楼●ピアノ＝牛田智大●曲目＝グリンカ:歌劇「ルスランと  
リュドミラ」序曲、ショパン:ピアノ協奏曲第1番、ムソルグスキー:組曲  
「展覧会の絵」(予定)●会場＝ライブポートとよはし コンサートホール  
●料金＝[全席指定]S席一般5,000円、A席一般3,500円ほか

**若手音楽家育成事業  
プラットワンコインコンサート2020**  
「若い音楽家には活躍の場を、お客様にはより音楽を楽しめる機会を  
提供する」と企画されたPLATオリジナルのワンコインコンサートです。  
500円で贅沢なひとときをお過ごしください。  
●会場＝PLATアールスペース●料金＝[全席自由・整理番号付]500  
円●会員・一般同時発売＝10月5日(月)

**11/26 [木]** 19:00開演  
**Lis[リス]**波多野千夏(ソプラノ)、寛悠里(ヴァイオリン)、植田結衣(ピ  
アノ)  
**12/24 [木]** 14:00開演  
**Trio Esters[トリオ・エステル]**満吉香苗(フルート)、岡田薫子(フル  
ート)、鈴木風香(フルート)

**古典遊学  
シェイクスピア講座～シェイクスピア劇の最大の道化?フォー  
ルスタッフをめぐる笑いと困惑～**  
**11/22 [日]** 14:00～16:00  
●講師＝河合祥一郎●会場＝PLATアールスペース●参加費＝1,000  
円●募集人数＝50名(先着順)●申込方法＝①申込書に必要事項を  
記入の上、窓口持参かFAX(0532-55-8192)②劇場ホームページ  
の専用申込フォームより申込み。10/1より申込受付開始予定。



PLAT小劇場シリーズ  
KAKUTA  
『ひとよ』

P3から続く。

矢作—— 今回の作品づくりにあたり、コロナを経て、何を求めているかと考えていますか。

桑原—— 先日、東京公演の先行予約がいったん終わったところですが、今までにないぐらいお客様から「予約したよ」「やっと観れる」といった声を頂きました。演劇体験を楽しみにしてくださっている声がかんたにあるんだと、震えるような思いで手に取る感覚があった。「人さまの時間をこんなふうに預かってきたのだ」と思った。私は小劇場からやってきて、親に迷惑をかけ、周りから「いつまでやってるの」と言われたりもしながら、私がやりたいことをやっているのを観ていただいている、という感覚が今までありました。でも、もうそれだけではなく、「まるで共犯のように一つのものに対して向き合っており、お客さんも私も一個の体験をしているのだ」ということを改めて痛感した。この限られた2時間をみんなで共有することがどれだけ大事かとわかってしまった以上、いい加減なことではできない。まず私たちが、コロナが怖かろうが、思いつき楽しむ。もちろん対策をしっかりしながらではありますが、それは、後世の人たちに対して、一つ勇気を渡す力になる。「KAKUTA面白いことやってんな」と、誰かのエネルギーに繋がっていくようなものをつくらなきゃという思いがあります。

矢作—— えりさんは、このコロナ禍で考えられたこと、それを作品にどう反映できたらと思っていらっしゃるんですか。

渡辺—— 「演劇を守ろう」という運動をしていたのですが、一部の人からバッシングを受けたりして、「え、じゃなくてもいいことなの?」「じゃ田舎に帰って、自給自足した方がいいの?」と思うようになるまで追い詰められました。だけど、「みんな、むだだと思われていることをやってんだ」と改めて、「これはもう、好きでやるしかないんだ」と思った。自分がみんなに反対されて上京したときのことを思い出したのです。「芝居なんかするな」と、「河原乞食だ」と言われて、それを振り切って、親に「子どもはいないと思ってくれ」と言って演劇を始めたときと同じなのです。だから、コロナ禍で18歳の自分と65歳の自分が重なった。そう思ったときに、『ひとよ』のお母さんの



役をやる時も、「これ、死ぬ気でやろう」と思いました。

矢作—— 最後に、豊橋の人たちに向けてのメッセージを一言ずついただけますでしょうか。

桑原—— コロナの影響で、県をまたいでの移動は出来ないと言われていたので、豊橋に行くのはもともとと先にになると覚悟をしていたのですが、今回、この『ひとよ』を通して、豊橋に行けることになったとき、すごく嬉しくて。「あ、私にとっても豊橋って、すごく大事な場所になってきているんだな」と、3年目に感じております。2011年に作った『ひとよ』をブラッシュアップして、新たに豊橋の方々に観ていただく。「あ、これが桑原の代表作なんだな」と思っていたらいいと思います。お待ちしております。

渡辺—— 私もほんとうに楽しみです。出掛けられない今、演劇をもって、しかも、豊橋の人たちと会えるのが、思っただけでも楽しくてしょうがないです。

矢作—— ありがとうございます。

INTERVIEW:1-2

SUPPORT

知識製造業  
三遠機材株式会社  
http://www.san-en.co.jp

Gallery 48  
呉服町48 TEL.54-4848

有限会社 魚伊  
電話52-5256

株式会社 竹尾建築設計事務所  
代表取締役 竹尾 誠  
豊橋事務所/豊橋市平川南町91-2 千440-0035 Tel.0532-62-1331(代) Fax.0532-62-1332  
浜松事務所/浜松市東区流通元町13 千435-0007 Tel.053-422-3628(代)

グロリアンピアノ地域特約店  
白羽楽器 株式会社  
電話053-464-3015

竹内産婦人科  
産婦人科 婦人科(不妊治療)  
豊橋市新本町23 (豊橋市竹内産婦人科) 電話053-464-3015

ケンチク 701  
KURONO ARCHITECT STUDIO  
y.qlo0170@gmail.com

うつ、統合失調症、精神遅滞、発達障害、脳梗塞、人工透析、人工関節など  
豊橋・豊川障害年金相談センター  
初回相談無料 ☎0120-891-498  
豊橋市花中町160-9 障害年金専門社会保険労務士 竹下英司

看板広告 アラキスタジオ  
豊橋市上伝馬町16 電話52-5586番

本と文具なら  
精文館書店  
TEL.54-2345

ONOCOM なければつくる  
株式会社オノコム

外科・内科・胃腸科・麻酔科・肛門科  
医療法人栄真会 伊藤医院  
豊橋市小池町字原下35 電話45-5283(代)

創業文政年間 数きく宗  
豊橋市新本町40 電話52-5473番

調理と製菓のおいしい資格。  
豊橋調理製菓専門学校  
豊橋市八町通一丁目22-2 TEL.53-2809

豊橋銀行協会 (順不同)  
三菱UFJ銀行 みずほ銀行 静岡銀行 名古屋銀行  
三井住友銀行 三井住友信託銀行 清水銀行 第三銀行  
十六銀行 愛知銀行 中京銀行 大垣共立銀行

創業江戸 御茶屋菓子専門店  
若松園  
御菓子司

西村能舞台  
豊橋市上伝馬町  
代表=西村能三  
Mail=nnbutai@gmail.com

気まぐれコンサート  
事務局/0532-62-9259(小川恵司)

安心・安全な地下駐車場  
パ-ク500  
ソウの親子の  
看板が目印  
プラット主ホール・アートスペース公演等へのお客様は  
30分150円を30分100円(上限4時間まで)に割引します。

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・麻酔科  
医療法人 塩之谷整形外科  
理事長 塩之谷 昌 院長 塩之谷 香 副院長 市川義明  
豊橋市植田町関取54 電話0532-25-2115(代)

豊橋名産 舟あくわ

井上皮膚科クリニック  
診療時間 月・火・木・金 10:00~13:00 16:00~19:00  
土 10:00~14:00 休診日=水・日・祝  
電話0532-55-7007 愛知県豊橋市向山町字中畑13-1マイルストーン1F

プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。  
共和印刷株式会社  
豊橋市小池町36番地の1 TEL46-3281 FAX46-3285

整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科  
医療法人 大岩整形外科・皮フ科  
院長 大岩俊久 豊橋市大橋通二丁目115 電話55-2100

伝統的工芸品豊橋筆  
書道用品専門店  
高誠堂  
豊橋市呉服町四拾四番地 電話52-5514

本 豊川堂  
本店・カルミア店・アビタ向山店・プリオ豊川店  
セントファーン田原店・さきしまグロ-バルゲート店

ISO9001 ISO14001 愛知ブランド企業 認証・認定取得  
株式会社 三光製作所  
三光精密工業株式会社  
豊橋市佐藤一丁目12番地の3

Storyteller tells the Story  
物語コーポレーション

生活にフィアックオリティ  
sala

広告募集

TICKET CENTER

チケットの購入・お問合せ  
プラットチケットセンター

電話・窓口  
0532-39-3090 [休館日を除く10:00-19:00]  
オンライン  
http://toyohashi-at.jp [24時間受付・要事前登録]

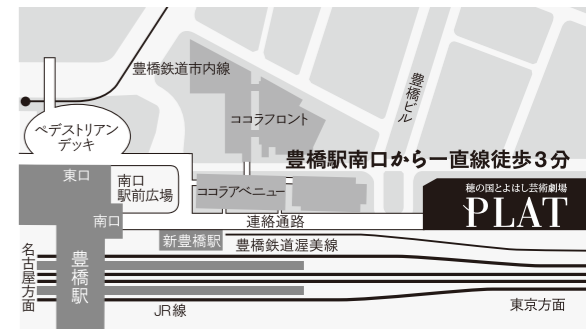


プラットフレンズ募集  
入会金・年会費無料

特典  
1 公演情報をメールでご案内します。  
2 インターネットでチケット予約ができます。  
3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。  
※劇場窓口またはホームページから登録いただけます。

U25・高校生以下割引のご案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。  
料金  
U25[25歳以下対象]:公演ごとに指定する席種の半額  
高校生以下:一律1,000円  
購入方法  
各公演の一般発売初日から窓口にて取扱い。  
その他  
本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。  
座席の指定はできません。要・入場時身分証明書提示。



〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地  
電話=0532-39-8810[代表]  
開館=9:00-22:00 休館日=第三月曜・年末・年始。  
第三月曜が祝日の場合はその翌平日。  
豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、  
新豊橋駅(豊橋鉄道渥美線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。  
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、  
お近くの公共駐車場等をご利用ください。

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT